

「なかまち夢通り」コミュニティ道路整備事業

受賞機関 福島県県中建設事務所

はじめに

福島県郡山市は、昨年度市制80周年を迎えた地方中核都市であり、郡山駅前の4つの商業核を拠点施設として「商業集積」と「回遊性」を目標とした「四核構想」の推進による中心市街地の活性化を目指している。

「なかまち夢通り」は、「四核構想」の連携を図る歩行車軸の形成と動線強化のため、質の高い街並みとしての整備が求められている道路である。

このため、平成10年に、商店街関係者とオブザーバー（行政）で構成する「モール化委員会」が組織され、「ともに考え、ともにづくり、ともに育む」道づくりの考えのもとに、「エレガントでダンディな街」をコンセプトとして平成11年度より事業に着手した。



位置図

事業の概要

- 計画延長：L = 305m
- 道路幅員：W = 5.0 (12.0) m
- 施設内容：
 - ・福島県施工（国土交通省補助事業）
コミュニティ道路の整備
電線地中化
 - ・商店街施工（経済産業省補助事業）
歩道の自然石舗装、オブジェ、街路灯
ボラード、音響設備

○ 事業期間：平成11年度～平成15年度

○ 総事業費：19億5千万円

事業の特徴

本事業は、企画、計画、運用及び維持管理の各段階において、地元商店街と行政が協働連携を図りながら実施しており、その主な内容は次のとおりである。

企画・計画

まちづくりのコンセプトの策定から、道路の高質化の内容に至るまで、地元商店街と行政からなる組織にて検討・決定され、通りの愛称を一般募集し「なかまち夢通り」とした。

維持管理

- ・毎月商店街による清掃活動の実施。
- ・商店街による歩道除雪（行政は、融雪剤を支給）
- ・街の文化や景観を守っていくための「まちづくり憲章」の制定

運用

道路の新たな活用方法として、オープンカフェやウェディングストリート等による賑わいづくりの社会実験を実施した。

歴史の継承

この通りの歴史・文化を掘り起こした冊子を民・官協働で作成し、まちづくりに関するイベントを開催した。



ウェディングストリート風景

おわりに

本事業は、「ともに考え、ともにつくった」道を、完成後に住民と行政が、「ともに育む」という協働作業を实践したものであり、今後展開される郡山駅前地区のまちづくりにおいて、「住民」と「行政」の新たな連携関係の具体的な事例として示唆を与えるものである。